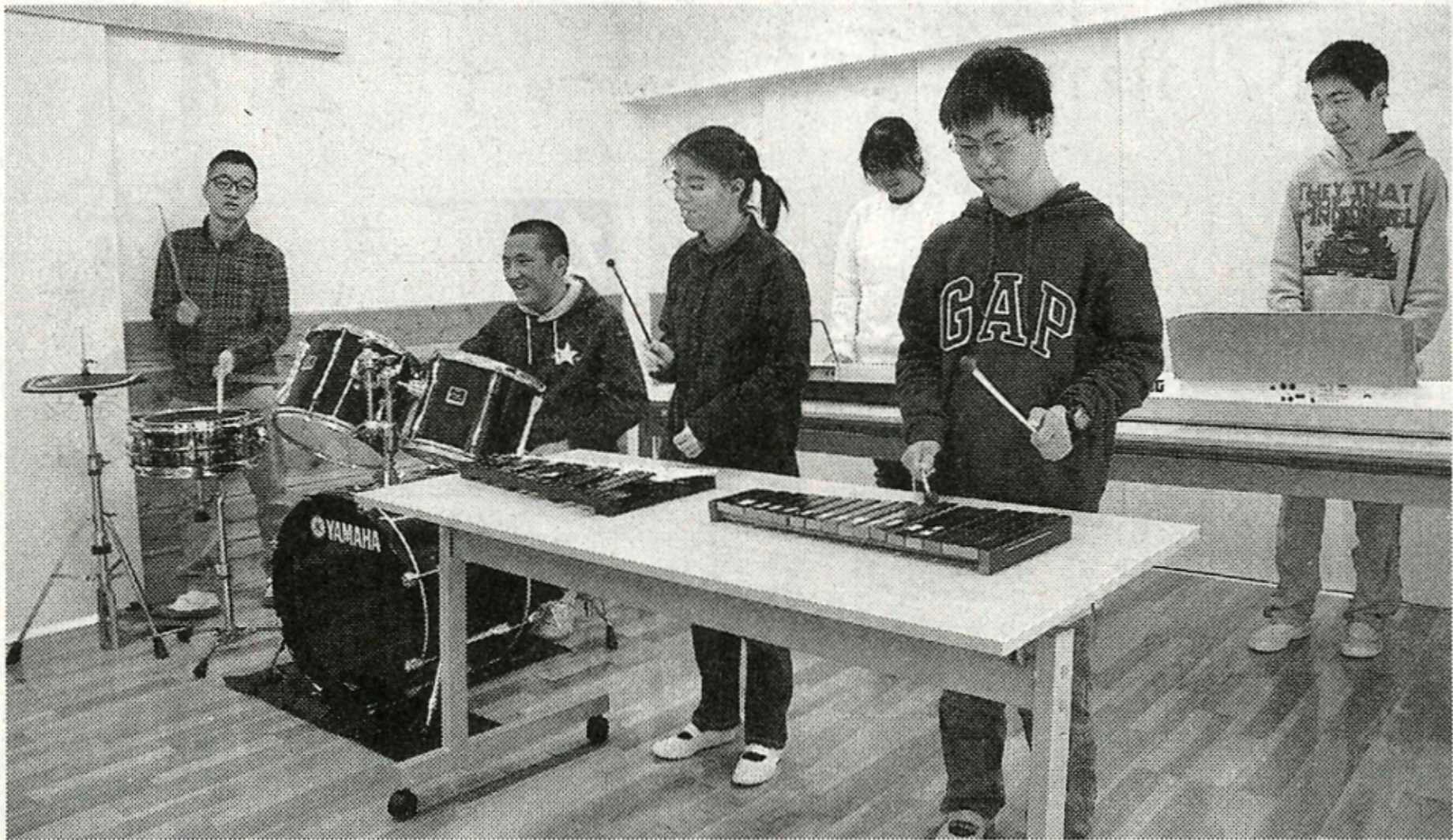


障害ある若者に学び場

障害者の自立や就労を支援する久喜市のNPO法人あかりは、同市青毛に特別支援学校高等部を卒業した生徒を対象に2年制の「あかり学園」を2月1日に正式に開設する。既に昨年4月から1期生7人が就労支援事業の一環で学園の生活を体験。同法人の川岸恵子代表理事は「生徒の可能性を伸ばし青春を謳歌(おつか)してほしい。そのための学びの場を提供したい」としている。開設に合わせ、生徒らが19、21日午前11時から、同市のショッピングモールモラージュ菖蒲で演奏を披露する。

(保坂直人)



演奏の披露に向け練習するあかり学園の生徒—久喜市青毛

久喜にあかり学園開設

同法人は県東北部で児童発達支援事業、障害者の就労支援事業、放課後等デイサービスなどを展開してきた。新設するあかり学園は、県の指定を受け、障害者総合支援法に基づく自立訓練(生活訓練)を実施。高等部卒業後、作業所や企業で就労するケースが多い中、卒業生を対象に学習に重点を置いた環境を整備する。

川岸代表は、同学園を開設した理由について、高等部卒業後の進路が限定されている点を強調。「通常であれば高校卒業後の進路は、進学を含め多くの選択肢がある。障害がある生徒も卒業後は成長する」ということを知ってもらいたい。県内では初めての取り組みで、今後学園の事業を広げていく」と期待を込め、着支援を行う。

同学園総合マネージャーの小林誠さんによると、高等部を卒業した生徒にとって、集団での生活や社会経験の蓄積など、学ぶ場は重要な意味を果たすという。小林さんは「仲間と楽しく活動する中で生徒は成長します。学ぶ意欲が強く、新しいことをどんどん吸収する」と成果に触れた。

学園は4人のスタッフと講師5人が生徒を指導。定員は20人で、現在、来年度以降の入学者を募集している。生徒の負担は教材費と旅行積立費など。学園は就労先の紹介や進路指導、就労後5年間にわたり就労先での定着支援を行う。

学園では自立訓練の一環として、国語、数学、パソコン、タブレットなど

問い合わせは、同NPO法人(☎0480・24・2060)へ。

あすから商業施設で演奏会